

2026 年度(令和 8 年度)学校評価自己評価表

城北 中学校区	校番 2	福山市立 城北中 学校
	最終更新 日	2026年(令和8年)3月31日

I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容 前年度の学校関係者評価報告書は「十分満足できる」と評価された項目が多かった。中学校校区で連携を深め、いろいろな取組で成果をあげている。各校の目標未達成の取組については現状をしっかりと把握し、達成に向けPDCA サイクルに則り実践する。	児童生徒の現状 前年度の全国学力学習状況調査の結果では、国語・数学(・理科)の平均正答率が市平均をどの学校でも上回ることができた。ただ、正答率40%未満の生徒は一定数おり、課題である。また、不登校の児童生徒も多い現状がある。	育成する 資質・能力 めざすこども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として 統一した取組等	主体的に判断する力・課題を発見し解決する力・地域社会と協働し貢献する力 ・主体的に考え、判断し、自律して行動する児童生徒 ・豊かな心を持ち、お互いを尊重し、協働する児童生徒 ・授業研究及び教科等部会の取組 ・家庭学習とメディア利用の取組 ・地域協働と地域交流の取組
---	---	---	---

III 自校

学校教育目標 生徒の主体性と自律性を育み、地域社会に貢献する生徒の育成
--

現 状 <生徒> ・福山市学力定着学習調査(※昨年度12月実施)において、正答率40%未満の生徒の割合が、国語14.5%、社会25.2%、数学22.3%、理科37.1%、英語40.7%だった。 ・生徒アンケート(※昨年度2月実施)「毎日家庭学習をしていますか」の肯定的評価の生徒の割合が58.8%だった。 ・生徒アンケート(※昨年度2月実施)「平日1日何時間メディアを利用していますか」の質問に対し、3時間以上と答えた生徒の割合が36.5%だった。 ・新規不登校生徒は減少傾向ではあるが、どの学年にも不登校生徒が一定数いる。 <授業> ・福山市学力定着学習調査(現中2、3※昨年度4月実施)において、正答率40%未満の生徒を担任や教科担で共有し、その生徒を意識した授業改善を行っている。 ・総合的な学習の時間で、地域清掃を行った。(太鼓部の演奏や美術部の高架下壁画作成等)
--

育成する 資質・能力	主体的に判断する力	課題を発見し解決する力	地域社会と協働し 貢献する力
めざす こども像	よりよい解決のため、いろいろな見方や考え方をもとに、根拠を持って正しい判断ができる生徒。	見出した課題に対し、自ら解決したり、解決策を導き出したりすることができる生徒。	地域の課題に目を向け、自らまたは他者と協力してできることがないかを考え、貢献できる生徒。

研究	テーマ	生徒の実態を把握し、傾聴姿勢を意識させ、生徒に見通しを持たせた授業づくり		
	内容等	全国学力学習状況調査や福山市学力定着学習調査の正答率40%未満の生徒を把握し、授業規律を意識し、授業の見通しを生徒に持たせた授業づくりを行い、学力向上につなげる。		
めざす授業の姿	生徒が課題解決に向けて、根拠を持って解決策を決定し、責任を持つ授業。	生徒が多角的な視点で問いを立て、解決策を創ることができる授業。	生徒が自分の地域課題に対し、他者と協力するなどして、解決できる授業。	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
3	自ら考え学ぶ生徒の育成	★	継続	主体的に学ぶ意欲・態度の向上	全国や福山市の学力学習調査において、正答率40%未満の生徒を共有し、それをもとに生徒面談や授業改善を行う。	・全国学力学習状況調査において、正答率40%未満の生徒を25%以下にする。  ・福山市学力定着学習調査において、正答率40%未満の生徒を25%以下にする。								
1	自らの生活を律する生徒の育成		新規	自らの生活習慣をマネジメントする態度を養う	メディアの利用時間と学力との関係を知り、生徒自身が自らメディア利用について考え、使用できる授業を行う。	・生徒アンケート「毎日家庭学習をしていますか。」の肯定的評価を70%以上にする。  ・生徒アンケート「平日のメディア利用時間について」の3時間以上の割合を30%以下にする。								
4	地域に貢献する学校づくり		継続	地域の一員としての自覚を高め、責任感を育成	気持ちの良い挨拶が自発的にできる、地域から信頼、応援してもらう生徒を育成するような生徒会を中心にした活動を行う。	・生徒アンケート「学校行事について、自分の役割を自覚し、主体的に行動しています」の肯定的評価を90%以上にする。  ・生徒アンケート「自分からあいさつをしています」の肯定的評価を90%以上にする。								

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	達成度	評価基準
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。